

中国語母語話者による日本語動詞の自他の習得

杉村 泰 （名古屋大学大学院）
建石 始 （鹿児島県立短期大学）
庵 功雄 （一橋大学）
稲垣俊史 （大阪府立大学）

〔本パネルセッションの趣旨〕

中国語母語話者はその数において日本語教育の過半数を占め、その人たちに対する日本語教育は現在の日本語教育における重要なテーマの一つである。本パネルセッションでは、中国語によるプラスの転移とマイナスの転移を体系的にとらえ、日本語文法教育の改善を行なう第一歩として、中国語母語話者による日本語動詞の自他の習得をキーワードとして行った調査・研究の結果を報告する。

日中両言語における自他の概観

建石 始（鹿児島県立短期大学）

1. はじめに

本発表では、まず、自動詞・他動詞の規定にどのようなものがあるかを概観する。次に、日本語における自動詞・他動詞の規定、および、その特徴を観察する。さらに、中国語における自動詞・他動詞の規定、および、その特徴を観察する。

2. 自動詞・他動詞とは

自動詞・他動詞は、意味的にはある動詞が他の事物に影響を及ぼすかどうか、形式的には目的語を取るかどうかで分類される。英語などの多くの印欧語では、他動詞は前置詞を付けずに目的語を取ることができるのに対して、自動詞は前置詞を付けなければ補語や目的語を取ることができない。また、受身を作ることができるものが他動詞で、受身を作ることができないものが自動詞とされる。

そのような基準とは別に、自動詞・他動詞の規定に関して、他動性の研究もよく取り上げられる。ヤコブセン(1989)はプロトタイプ（原型）という概念を用いながら、他動性を規定している。

他動原型の意味特徴：

- (a) 関与している事物（人物）が二つある。すなわち、動作主(agent)と対象物(object)である。
- (b) 動作主に意図性がある。

(c) 対象物は変化を被る。

(d) 変化は現実の時間において生じる。 (ヤコブセン 1989:217)

ヤコブセン(1989)は他動原型の意味特徴として上の4つを指摘し、それらの全てを兼ね備えたものは他動原型に近く、当てはまらない意味特徴があるものは他動原型から離れていくとしている。また、自発(自動)原型の意味特徴として、以下のものを提示している。

自発原型の意味特徴：

(a) 関与している事物(人物)が一つある。すなわち、対象物(object)である。

(b) 対象物は変化を被る。

(c) 変化は現実の時間において生じる。 (ヤコブセン 1989:239)

他動原型と同様に、これらの意味特徴の全てを兼ね備えたものは自発(自動)原型に近く、当てはまらない意味特徴があるものは自発(自動)原型から離れていく。

3. 日本語の自動詞・他動詞

日本語の自動詞・他動詞の議論では、目的語としてヲ格が取り上げられ、ヲ格を取る動詞は他動詞¹、ヲ格を取らない動詞は自動詞となる。ただし、ヲ格を取る全ての動詞が他動詞というわけではなく、「出る」「走る」「通る」といった起点や経路のヲ格を取る動詞は自動詞という位置付けになる。

また、受身に関して、直接受身にできる動詞は他動詞、間接受身にしかできない動詞、および、受身にできない動詞を自動詞とする研究もある。例えば、三上(1953)は受身にならない動詞を所動詞、受身になるものを能動詞と呼び、能動詞の中で直接受身にならないものを自動詞、直接受身になるものを他動詞としている。

日本語の動詞は和語動詞と漢語動詞に分けられ、和語動詞はさらに有対動詞と無対動詞に分けられる。有対動詞とは「始まる」⇔「始める」や「燃える」⇔「燃やす」などのように、意味・形態上、対をなす動詞のことである²。それに対して、無対動詞は意味・形態上、対をなすことはなく、意志性に関してもさまざまなタイプがある³。

「出かける」「起きる」〈意志的自動詞〉 「殺す」「たたく」〈意志的他動詞〉

「衰える」「晴れる」〈非意志的自動詞〉 「帯びる」「こぼす」〈非意志的他動詞〉

一方、漢語動詞は有対・無対という区別がない代わりに、「開始する」「停止する」のような自動詞と他動詞の両方で使える自他兼用動詞、「外出する」のような意志的自動詞、「殺害する」のような意志的他動詞、「衰退する」のような非意志的自動詞、「含有する」のような非意志的他動詞などが存在する。

4. 中国語の自動詞・他動詞

中国語の自動詞・他動詞は「不及物動詞」「及物動詞」と呼ばれる。これはある動詞が他の事物に影響を及ぼさないものは「不及物動詞」、他の事物に影響を及ぼすものは「及物動

¹ ただし、「かみつく」など、二格を取る一部の動詞を他動詞とする場合もある。

² 有対動詞にどのような組み合わせがあるかに関しては、寺村(1982)やJacobsen(1991)に詳細が述べられている。

³ 早津(1995)では、有対他動詞は働きかけの結果の状態に注目するのに対して、無対他動詞は働きかけの過程の様態に注目することが指摘されている。

詞」となり、意味的な基準に基づいた名称と言える。ただし、影響を及ぼすかどうかの判断は難しく、どのような基準で分類するかが問題となる。

中国語では補語などを付けなければ動詞がそのままの形で受身にはできないため、受身にできるかどうかという基準で「不及物動詞」と「及物動詞」を分類することはできない。

- (1) 大家选了小陈。(みんなが陳さんを選んだ。)
- (2) * 小陈被大家选了。(陳さんはみんなに選ばれた。)
- (3) 小陈被大家选上(中)了。(陳さんはみんなに選ばれた。)

(いずれも相原・楊 1990:124)

(1)を受身にした(2)は成立せず、「上」「中」などの補語が必要となる。

また、目的語の基準もそれほど有効とは言えない。英語などでは動詞の直後に目的語が来るが、中国語では目的語とは言えないものも動詞の直後に来ることができるからである。

- (4) 吃饭(ご飯を食べる)
- (5) 吃大碗(大きな碗で食べる)
- (6) 吃食堂(食堂で食べる)

同じ「吃(食べる)」という動詞であっても、(4)は目的語が来ているが、(5)は道具、(6)は場所といった目的語ではないものが動詞の直後に来ている。

さらに、中国語には主語と動詞の語順が異なる「存現文」と呼ばれる構文(「下雨」(雨が降り始める)・「来客人了」(お客さんが来た)など)もあるため、目的語の基準で分類することは難しい。

日本語では自動詞・他動詞の両方で使える兼用動詞は「開く」「開始する」など、数が限られるのに対して、中国語では兼用動詞が日本語に比べると数が多いという特徴がある。

また、中国語には、日本語のような有対動詞は存在しない。自動詞を他動詞化するためには、その前に新たな動詞をもう一つ付け加える。

- (7) 「倒(倒れる)」⇔「推倒(押し倒す)」「砍倒(切り倒す)」
- (8) 「干(乾く)」⇔「晒干(陰干して乾かす)」「烘干(火にかけてかわかす)」

主要参考文献

- 相原茂・楊凱栄(1990)「自動詞と他動詞—中国語と日本語—」『国文学解釈と鑑賞』55-1, 至文堂
- 佐藤琢三(2005)『自動詞文と他動詞文の意味論』笠間書院
- 須賀一好・早津恵美子編(1995)『動詞の自他』ひつじ書房
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
- 早津恵美子(1995)「有対他動詞と無対他動詞の違いについて」須賀一好・早津恵美子編(1995)『動詞の自他』ひつじ書房
- 三上章(1953)『現代語法序説』刀江書院(くろしお出版から復刊(1972年))
- ウェスリー・M・ヤコブセン(1989)「他動性とプロトタイプ論」久野暁・柴谷方良編『日本語学の新展開』くろしお出版
- W. M. Jacobsen(1991) The Transitive Structure of Events in Japanese. Tokyo: Kuroshio Publishers

中国語話者による漢語サ変動詞の自他の習得

庵 功雄（一橋大学）

1. はじめに

中国語話者の日本語習得に漢語の知識が関係していることは十分に考えられる。本発表ではアンケート調査によって得られたデータをもとに、漢語サ変動詞の自他の習得に関連する一要因について報告する。

2. 調査の概要

アンケートの概要は次の通りである。

<被調査者>

母語話者：日本国内の大学生・大学院生 26 人

非母語話者：中国黒竜江大学の大学生，大学院生

初級：同 2 年生（48 人）¹，中級：同 3 年生（49 人），上級：同 4 年生（48 人）

超級：同大学院生（26 人）

<被調査語>

日中で同音同義になる動名詞（＝サ変動詞になれる名詞。小林 2004）を調査対象とした。同音同義語を対象としたのは既習・未習の別による差異を捨象するためである。

<回答形式>

調査文の（ ）に「し、され、させ」のいずれかを入れて回答する（複数回答可）。

3. 調査の結果

ここでは調査の結果を報告するが、その際重要な区別になるのが、非対格自動詞（ほぼ非意志的自動詞に相当）と非能格自動詞（ほぼ意志的自動詞に相当）の区別である。

3-1. 非対格自動詞（≡非意志的自動詞）

まず「一致する」のように「動名詞＋する」が非対格自動詞の場合（以下、「非対格自動詞の場合」と略称する。非能格自動詞，他動詞の場合も同様）を考察するが，この場合は「される」の許容度に差が見られる。すなわち，次ページの（表 1）の (02)「一致」から (88)「増大」までは母語話者も学習者も「される」を回答していないのに対し，(71)「分裂」から (11)「開通」までは超級においても「される」が回答されている。

3-2. 非能格自動詞（≡意志的自動詞）

これに対し，「前進」のような非能格自動詞の場合は，次ページの（表 2）からわかるように，全体的には「する」は習得されやすいと言える。

¹ 1 年生を調査対象から外したのは調査時点で受身と使役が未習であったためである。

3-3. 他動詞

「吸収」のような他動詞の場合も、次々ページの(表3)からわかるように、全体としては「する」の習得率は高いと言える。ちなみに、この3-1~3-3の結果は、中国国内の別の大学で行った調査に基づく庵(2008)の調査結果を補強するものでもある。

(表1) 非対格自動詞

例文	母語(26人)			初級(2年48人)			中級(3年49人)			上級(4年48人)			超級(院26人)		
	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ
(02)事故の経過は彼の証言と一致()しています。	◎			◎			◎			◎			◎		
(27)電車は時間通りに発車()しました。	◎			○			○			◎			◎		
(43)外で歩かないと、足が退化()します。	◎			◎			○			◎			◎		
(45)パソコンの売り上げが停滞()しています。	◎			○			◎			○			○		
(59)彼は急に沈黙()しました。	◎			◎			◎			◎			◎		
(64)彼は失業()しました。	◎			○			◎			◎			◎		
(79)地球の温度はこの10年で1度上昇()しました。	◎			○			◎			◎			◎		
(82)この道路では5年間で事故が激増()しました。	◎			◎			◎			◎			◎		
(88)戦争の危機が増大()しました。	◎			○			○			◎			◎		
(14)ガンの治療法は日に日に進歩()しています。	◎			○			○	△		◎			◎		
(74)首相の発言に失望()しました。	◎			△	△		○			○			○		
(71)自民党は政策をめぐる分裂()しました。	◎			○			○	△		◎			○	△	
(21)この機械の導入で仕事の量が減少()しました。	◎			△	△		△	△		◎	△		○	△	
(85)パーティは順調に進行()しました。	◎			○			○	△		○			○	△	
(51)この10年間、日本では経済的格差が拡大()しました。	◎			○	△		○	△		○	△		△	○	
(29)この分野は急速に発展()しました。	◎			○			○	△		◎	△		○	△	
(34)彼女の踊りを見て、強く感動()しました。	◎			○	△		△	○		○	○		○	○	
(76)彼のおかげで問題は簡単に解決()しました。	◎	△			○		△	○		△	○		△	○	
(11)家の近くに長いトンネルが開通()しました。	◎				○			◎		△	○			○	

【記号の見方】

◎ : 80%以上が回答 ○ : 50%以上 80%未満が回答 △ : 30%以上 50%未満が回答

無印 : 30%未満が回答 (すべて複数回答可)

(表2) 非能格自動詞

例文	母語(26人)			初級(2年48人)			中級(3年49人)			上級(4年48人)			超級(院26人)		
	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ
(18)軍隊はゆっくり前進()していました。	◎			◎			◎			◎			◎		
(24)彼女は彼としっかり握手()しました。	◎			◎			◎			◎			◎		
(57)彼は10分で全ての問題に解答()しました。	◎			○			○			○			◎		
(63)私は彼女の意見に賛成()します。	◎			◎			◎			◎			◎		
(67)彼らは退職後オーストラリアに移民()しました。	◎			◎			◎			◎			◎		
(75)私は6時から2時間ほど外出()しました。	◎			◎			◎			◎			◎		
(69)彼女は親に反抗()て家出しました。	◎			○	△		○			◎			◎		
(09)犯人は拳銃で武装()していました。	◎			○	△		○	△		○	△		◎	○	
(13)子どもたちが正門の前に集合()しています。	◎			○			○	△		◎		△	◎		
(72)A国はB国に降伏()しました。	◎		△		○			○	△	○	○		△	○	

3-4. 非対格自動詞の他動詞形

「発展」のような非対格自動詞に対応する他動詞形は(a) (b)からわかるように、「する」ではなく、「させる」になる。

(a) 日本の経済が発展した。

(b) 首相が日本の経済を発展させた (*発展した)。

この現象に関しても（他の場合と同じく）母語話者にはほとんどゆれが見られないのに対し、（表4）からわかるように、学習者にはかなりのゆれが見られる。

（表3）他動詞

例文	母語(26人)			初級(2年48人)			中級(3年49人)			上級(4年48人)			超級(院26人)		
	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ
(03)この布は水をよく()ます。	◎			◎			◎			◎			◎		
(25)日本は中東の産油国から石油を輸入()ています。	◎			○			◎			◎			◎		
(30)彼女は多くの国を訪ねて切手を収集()ました。	◎			◎			◎			◎			◎		
(36)彼女が何も言わないということは、その案に反対だということを意味()ます。	◎			◎			◎			◎			◎		
(46)A国は外国からの攻撃を警戒()ています。	◎			○			○			◎			◎		
(56)彼は自分の行為を反省()ています。	◎			◎			◎			◎			◎		
(90)彼女は新しい本を出版()ました。	◎			○			◎			◎			◎		
(10)あの赤い高級車は彼が操作()ています。	◎			△	○		△	○		○			◎		
(15)この短期アルバイトをした人には1日5千円を支給()ます。	◎			△	○		△	○		○	△		○	△	
(84)この本は苦労して購入()ました。	◎			△	△		○	△		○	△		○	△	

（表4）非対格自動詞の他動詞形

例文	母語(26人)			初級(2年48人)			中級(3年49人)			上級(4年48人)			超級(院26人)		
	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ	し	され	させ
(20)彼はこの国の経済を発展()ました。			◎			○			◎			◎			◎
(58)彼は新しい連立政権を誕生()ました。			◎			○			○			◎			○
(01)彼は自動車事故で女性を死亡()ました。			◎		△	○			○			○			◎
(83)首相は戦後、政治を安定()ました。			◎			○	△		○			◎			○
(35)政府は失政で経済を混乱()ました。			◎			○	△		○			○			○
(48)その工場は環境を悪化()ました。			◎	△		○	△		○	△		○			○
(07)子どもたちがこまを回転()て遊んでいます。			◎	△		△	○			○		△	○		○
(54)彼はその政党を分裂()ました。			◎	△		○	△		○	○		○	△		○
(68)彼女は容器を熱して、中の水の温度を上昇()ました。			◎			○			○			○	△		○
(93)政府は国債をたくさん発行して借金を増大()ました。	△		◎	△		△	○		△	○		△	○		△

4. 考察

今回の調査の結果、日本語と中国語の漢語には「非対格性」に関するずれがあることが示唆された。（表1）で学習者が「される」を選択する傾向が高いものとほとんど「される」を選択しないものがあるが、この基準がどのようなものであるかは完全には明らかになっていない。ただし中国語文法で「自然被動文」（大河内 1974）と呼ばれる次のような「被」などの受動マーカーを伴わない文の存在が関連していることが考えられる。

（c）門推開了。

（ドアが押シアケラレタ）（訳文とも木村(1981)より）

今後は既習・未習の場合を考慮に入れた上で、日中同形同義語以外についても考察対象を広げることが必要である。

参考文献

- 庵 功雄(2008)「漢語サ変動詞の自他に関する一考察」『一橋大学留学生センター紀要』11
 大河内康憲(1974)「被動が成立する基礎」『中国語学』220
 木村英樹(1981)「被動と「結果」」『日本語と中国語の対照研究』5, 日本語と中国語対照研究会
 小林英樹(2004)『現代日本語の漢語動名詞の研究』ひつじ書房

コーパスから見た中国語学習者の自他に関する運用上の問題点

杉村 泰（名古屋大学大学院）

1. 魯東会話コーパス

科学研究費補助金（基盤研究（C））（課題番号 19520451）

「中国語話者のための日本語教育文法の開発と学習者中間言語コーパスの構築」

- ・魯東大学日本語学科の日本人教師 1 人と中国人学生の会話
- ・収集データ：2006 年 6-7 月（1 年生 59 人、2 年生 28 人、3 年生 20 人、4 年生 27 人）
2007 年 6-7 月（1 年生 30 人、2 年生 55 人、3 年生 26 人）
2007 年 12 月（2 年生 56 人、3 年生 50 人、4 年生 54 人）
- ・音声＋文字化資料の公開（2010 年 4 月の予定）

以下は、「2007 年 6-7 月」のデータに基づく

2. 自他の誤用（6 例）

- ・自動詞を使ったほうがいいときに他動詞を使ってしまう。しかし、他動詞を使っても格助詞は「を」ではなく「が」を使う（例 4～5）。
- (1) 先生がゆたゆたした歩い方を見ると、いつも感動されました（→感動しました）。（2 年 0532）
 - (2) 私は、もう、多分、自分の夢、自分の夢は実現する時に、んー、頑張って続いて（→続けて）います。（2 年 0501）
 - (3) ほかの町に生んで、生んだ、生んだ、生んだ（→生まれた） 学生と私の [普通话] はあのう良くないです。（2 年 05015）
 - (4) 最初の頃は、まずは研究室で研究して、あのう、あんまり口が開けなかった（→開かなかった） んですけど、（3 年 0416）
 - (5) もし、大連で、仕事が、見つけなかったら（→見つからなかったら）、煙台、煙台で仕事をしたい。（3 年 0422）
 - (6) （泥棒に財布を盗られて）彼は、20、20 元だけ残しました（→残っていました）。（3 年 0440）

3. 格助詞の誤用

- ・「に」を使うべきときに「を」を使い、「を」を使うべきときに「が」を使う誤用が多い。（学習者：「に」→「を」→「が」）

●*が→を（23 例）

- (7) 毎日勉強します。映画が（→を） 見ます。（1 年 0682）
- (8) いろいろな映画が（→を） 見ました。例えばスリラー映画が（→を） 見ます。（1 年 0685）
- (9) 私は、以前は、このにがいて、あ、にがいるの新聞が（→を） 見ました。（2 年 0501）
- (10) んー、私は以前に高、高校時代るとき、んーいつもいつも勉強して、かのもとと接す

- ることができない、でも大学に入って、入ってから、いろいろなものが(→を)見て、いろいろなことが(→を)やって、自分の性格はだんだん変わっています。(2年 05017)
- (11) 高校のとき、いろいろな科目が(→を)習います。〈はい〉大学に主な科目が(→を)習いますので、自分はとても嬉しいです。(1年 0696)
- (12) 私は今年は日本語が(→を)勉強します。〈はい〉バスケットボールが(→を)勉強します。コンピューターが二回、二回、二回のテストが(→を)受け、受けます。(1年 0698)
- その上に、んー私は、んー韓国語が(→を)勉強している。(2年 05014)
- (13) 簡単な単語が(→を)覚え、覚えることができます。(2年 05014)
- (14) あ、なつみや、夏休みで勉強、あー勉強することが(→を)続けています。(2年 05012)
- (15) 今、成績が(→を)知りませんよ。(2年 0519)
- (16) 将来私は、勉強、日本語を使う仕事をすることが(→を)望む、望み、望みますよ。(2年 0519)
- (17) 一年生の時、二年生のはじめの時、〈はい〉いろいろなことが(→を)考えると書くことができませんでしたね。授業に受けると、いろいろなことが(→を)書くにできます。(2年 05026)
- (18) 土川先生は、犬の肉が(→を)食べませんでした。(2年 0535)
- (19) 男の、あの、服は、割り、割引が(→を)します。しています。(中略) 割引がありますので、〈うーん〉たぶんその時、買ったほうがいいです。(2年 0537)
- (20) 先生、先生は、私、私に、二年生のかん、感想、かん、感想が(→を)質問しま、しました。(2年 0542)
- (21) 二組の、学生は、ある人が携帯電話が(→を)、あー落としました。例えば、〇〇さん、〇〇さん、あの二人の人は携帯電話を落としました。(3年 0440)
- (22) 彼はバスでの、乗った時、財布が(→を)泥棒に、泥棒に盗られました。(3年 0440)

なぜ「が」が使われるのか？

- ・学習者は「Nが」と言ってから適当な述語を探す。つまり、動詞文も「～は～が～だ」構文を基礎にして、「Nについて言えば、Vである」と言ってしまう。

●*が→に (7例)

- (23) いろいろ友達が(→に)会いました。(中略) それに、井上先生が(→に)会いて、とても幸いです。(1年 0696)
- (24) 一級テストが(→に)合格したいです。(2年 0519)
- (25) 私は一級試験が(→に)合格した後で必ず試験を、必ずガイドになるために勉強しないで、勉強します(2年 0526)
- (26) 日本語の1級能力試験が(→に)合格と、あの、合格できれば、よかったと思います。(2年 0555)
- (27) 残念ながら、一級テストが(→に)合格しなかったです。(3年 0413)
- (28) いつもいろいろ間違ったことが(→に)気が付きました。(2年 0532)

●*を→が (6 例) 中国語では「V + S/O」となる

- (29) 雪を、雪を (→が) 降ったとき、一緒に雪合戦をしました。(1 年 0689)
- (30) 友達を、友達を (→が) できます、できます。(1 年 0602)
- (31) 日本語の、日本語の勉強の中でいろいろの問題を (→が) ありました。(2 年 0518)
- (32) それから作文、特に一級テスト、〈はい〉 いろいろな困難を (→が) あります。(2 年 0518)
- (33) 私は、本、本来、本来私は、私は歴史、歴史を (→が)、歴史が好きです。(2 年 05018)
- (34) 「だから、お金を (→が) ほしい」と言いました。(3 年 0440)

●*を→に (19 例) 中国語では「V + O」となるものが多い

- (35) でも、私はたくさん友達、友達を、友達を、たくさんの友達を (→に) 会いました。(1 年 0687)
- (36) 両親を (→に)、両親に会って、〈うん〉ふるさと、夏休み、夏休みは、嬉しい。(1 年 0601)
- (37) 優しい先生、先生を、先生を、優しい先生を (→に) 会います。(1 年 0602)
- (38) えーと、面白くて、たくさん友達を (→に) 会い、会いました。(1 年 0605)
- (39) 私の目標は英語の六級と日本語の一級のために、を (→に) 合格したいです。(2 年 05014)
- (40) 日本語の能力、1 級能力試験を (→に)、合格すればいい。(2 年 0537)
- (41) 1 級、のりよくテストを (→に)、合格するつもりです。(2 年 0547)
- (42) 来学期の目標は1 級能力試験を (→に) 合格したいと思います。(2 年 0548)
- (43) ただ一級の試験を (→に) 合格するために、頑張りました。(3 年 0447)
- (44) この夏休みは、〈はい〉私は、私は山、山を (→に) のぼ、登ります。(1 年 0684)
- (45) 私たちは、黄山、黄山を (→に) 登るつもりです。(2 年 0551)
- (46) 土曜日と日曜日は、私はバスケットボールを (→に) 行きたいですが、(1 年 0683)
- (47) 大学の外国語、外国語大学を (→に) 行きたいです。(2 年 0509)
- (48) あ、以前は、んー、船を (→に) 乗ります。(2 年 0503)
- (49) 土川先生は、ボート、ボートを (→に) 一緒に、のりま、乗りました。(2 年 0551)
- (50) いろいろな活動を (→に) 参加しようと思います。(1 年 0609)
- (51) 私は日本の会社を入、日本、日本の会社を (→に) 入社した。(2 年 05018)
- (52) 私は日本語を、を専攻として、日本語の翻訳を (→に) なりたいです。(2 年 05014)
- (53) もし、東京へ行ったら、そこで、東京、東京で、ある大学の先生にな、なることができから、あ、そこで、あ、日本人を (→に)、日本人に中国語を教えたいです。(3 年 0426)

●*に→を (2 例)

- (54) 私の目標は、例えば、私の日本語の勉強に (→を) 一生懸命にします。わ、去年、去年、私の、私の日本語の成績は悪かったです。〈はい〉それで、来年、私、私は日本語を一生に、一生勉、勉、日本語を勉強しなければなりません。(1 年 0688)
- (55) 母に (→を) てつだ、手伝い、て、手伝います。(2 年 0539)

第二言語習得理論から見た中国語母語話者の自他の習得

稲垣俊史（大阪府立大学）

1. はじめに

動詞の自他の交替はどの言語にでも存在する普遍的特性と考えられるが、その形態的現れは言語間で異なる。例えば、日本語では接辞を介して他動詞から自動詞への派生 (1a,b)、自動詞から他動詞への派生 (1c,d)、語根から両方向への派生 (1e,f) のいずれも見られるのに対し、英語では接辞を伴わないゼロ派生 (2) が普通である：

- | | |
|----------------------------|--|
| (1) a. 泥棒が窓を割った。(war-u) | (2) a. The thief broke the window. (break) |
| b. 窓が割れた。(war-e-ru) | b. The window broke. (break) |
| c. 敵が船を沈めた。(sizum-e-u)。 | c. The enemy sank the ship. (sink) |
| d. 船が沈んだ。(sizum-u) | d. The ship sank. (sink) |
| e. 料理人がバターを溶かした。(tok-as-u) | e. The cook melted the butter. (melt) |
| f. バターが溶けた。(tok-e-ru) | f. The butter melted. (melt) |

言い換えれば、どの言語にも普遍的語彙概念構造 [x CAUSE [y BECOME predicate]] が存在しており、外項 x と内項 y の両方が現れたものが他動詞で、外項 x が抑制され内項 y のみが現れたものが自動詞である。言語間で異なるのは、この自他動詞の派生が形態上どのように反映されるか（されないか）である。この観点から見て、動詞の自他は、言語習得における普遍性と個別性がどのように影響し合うかを検証する格好の現象であると言える。

本発表では、まず、最近の動詞の自他の習得に関する重要な二研究—日本語の第一言語習得を調査した Murasugi, Hashimoto, & Fuji (2007) と英語、スペイン語、トルコ語の第二言語習得を比較調査した Montrul (1997, 2000) —を概観し、自他動詞習得研究の背景を提示する。次に、中国語と日本語の自他交替の現れの違いも踏まえ、中国語話者による日本語の自他の習得に関する予測を提示し、さらに、中国語話者による日本語動詞の自他の習得データが、第二言語習得理論にどのような示唆をもたらすかを考察し、今後の調査・研究の方向性を示す。

2. 動詞の自他の第一言語習得研究—Murasugi, Hashimoto, and Fuji (2007)

Murasugi, Hashimoto, and Fuji (2007) は、日本語の第一言語習得における動詞の自他の誤用や発達段階を生成文法の枠組みで説明しようと試みた。日本人の子供二人の縦断的データ (Akkun (1;9-7;0), Sumihare (1;11-6;0)) が分析対象となった。その結果から Murasugi らは、使役接辞がゼロの段階が存在すると提案し、その段階で自動詞を他動詞の文脈に使用する誤用 (3a,b) や、他動詞を自動詞の文脈に使用する誤用 (3c,d) が現れることを示した。

- (3) a. これ、あいとく (あけとく) からさ。(A: 4;5)
b. かあちゃんたいたい (鯉のぼり) あがって (あげて)。(S: 2;2)
c. ぬいた (ぬけた) ここ。(S: 2;1)
d. あけん (あかん (=あかない)) あけん (あかん)。(S: 2;1)

Murasugi らは、普遍的な自他交替の語彙統語構造は早期に習得されるが、時間がかかるの

は個々の動詞の形と使役接辞の様々な語彙的現れを学習することである、と結論づけた。

3. 動詞の自他の第二言語習得研究—Montrul (1997, 2000)

Montrul (1997, 2000) は英語, スペイン語, トルコ語の自他の交替の第二言語習得を調査した。スペイン語は, (4) のように他動詞に反使役再帰接語 *se* を付けて自動詞を派生する言語である (*romper* “割る” → *se romper* “割れる”)。一方, トルコ語は, 反使役接辞と使役接辞の両方を持つ日本語型の言語である (5) :

- | | |
|---|--|
| (4) a. El ladrón rompió la ventana.
the thief broke the window | (5) a. Hırız pencere-yi kır-mış.
泥棒 窓-を 割った |
| b. La ventana se rompió.
the window self broke | b. Pencere kır-ıl-mış.
窓 割れ-た |
| c. El enemigo hundió el barco.
the enemy sank the boat | c. Düşman gemi-yi bat-ır-mış.
敵 船-を 沈め-た |
| d. El barco se hundió.
the boat self sank | d. Gemi bat-mış.
船 沈んだ |

文法性判断タスクを用いて中級レベルの英語話者, スペイン語話者, トルコ語話者を調査したところ, 母語の自他交替の形態的現れが第二言語習得に影響を及ぼすことを示す証拠が得られた。例えば, スペイン語話者は, 母語の影響で (cf. (4b)) 英語の “The window broke” のようなゼロ派生自動詞文を容認しない傾向にあることや, 逆に, 英語話者は, スペイン語の自動詞文 (4b) における *se* の必要性をトルコ語話者ほど認識しておらず, *se* のない文を誤って容認する傾向があることが示された。一方で, 母語習得にも見られる非対格動詞の他動詞化の誤り (**The magician disappeared the rabbit*) などは, 母語に関わらず起こった。この結果から Montrul は, 自他交替の語彙統語構造は普遍文法の一部で第二言語習得者も利用できるのに対し, 形態レベルでは母語の影響が強く現れると結論づけた。

4. 中国語話者による日本語の動詞の自他の習得

張 (2009) によると, 中国語の対をなす自他動詞には, 他動詞の方が行為の様態を表す動詞と結びついた複合動詞 (打破, 推倒) として現れるもの (6a,b) と, 英語のように自他同形 (開, 停止) (つまりゼロ派生) のもの (6c,d) がある。

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| (6) a. 小偷 打破 窗户了。
“泥棒が窓を割った” | c. 窗户 破了。
“窓が割れた” |
| b. 窗户 破了。
“窓が割れた” | d. 我 開 門了
“私はドアを開けた” |

すなわち, 中国語はゼロ派生 (6c,d) を有する点で英語に似ているが, 他動詞が複合動詞化する点で英語と異なる。また, 複合動詞の前半に起こる様態動詞は様々で (打, 推, 砍, 丟, 踢), 自他動詞の対応が一对多になる (倒 ⇔ 推倒, 砍倒, 踢倒) 点も中国語の特徴と言える。

さて, これまでの自他動詞の第一, 第二言語習得研究と中国語の自他動詞の特性を踏まえて, 中国語話者による日本語の自他動詞の習得に関してどのようなことが予測できるであろうか。まず, 中国語話者にとって困難なのは, 日本語の自他動詞の様々な語彙的・形

態的現れを学ぶことであろう。日本語の自他動詞の派生のパターンは多様で複雑であり (Jacobsen, 1992), 個々の動詞の形と使役接辞を学習するのはたやすいことではないと思われる。第一言語習得でも見られる自動詞形と他動詞形を混乱した誤り (cf. (3)) が起こることが予測される。また母語の転移は形態レベルで起きる (Montrul, 2000) ことを考慮すれば, 母語に使役接辞を持たない中国語話者にとって日本語の自他動詞の正しい形を学ぶのは一層困難であると考えられる。

さらに, 中国語が複合動詞で他動詞を作るオプション (打破, 推倒) を持つことから, 日本語の (行為の様態動詞を伴わない) 他動詞 (割る, 倒す) の習得が自動詞に比べ困難である可能性がある。ただし, 日本語にも存在する複合動詞 (打ち破る, 押し倒す) の習得に関しては, 中国語からの正の転移が考えられる。

最後に, 中国語のゼロ派生 (6c,d) に関して, 実は日本語にもサ変動詞で同様の現象が見られる (車が停止した/車を停止した)。そうであれば, サ変動詞の自他に関しては, 中国語話者は母語の正の転移により問題なく習得できるはずである。ただし, サ変動詞が自他交替可能であるかどうかは, 派生接辞が付かないため, 出来事が動作主なしで自然発生すると認識できるかどうかなどの意味的・認知的要因により決定される (影山 1996)。このような微妙な要因が働くとなると, 中国語と日本語で対応する動詞であっても, 両言語間で自他交替の可能性が一致しない場合が考えられ, ズレがある場合は逆に習得を困難にする可能性もある。

中国語話者による日本語の動詞の自他の習得研究は, 動詞の自他交替の第二言語習得における普遍性と母語の影響を考える上で貴重なデータを提供し, 第二言語習得理論の進展に貢献できると言える。今後, 上で提示した予測や他の側面をさらに検証していく研究が必要とされる。

参考文献

- 張麟声 (2009). 「日中両語の自・他動詞の対照研究」第 12 回中国語話者のための日本語教育研究会.
- Jacobsen, W. M. (1992). *The transitive structure of events in Japanese*. Tokyo: Kurosio Publishers.
- 影山太郎 (1996). 『動詞意味論—言語と認知の接点—』大修館.
- Montrul, S. (1997). *Transitivity alternations in L2 acquisition: A crosslinguistic study of English, Spanish, and Turkish*. Unpublished doctoral dissertation, McGill University, Montreal.
- Montrul, S. (2000). Transitivity alternations in L2 acquisition: Toward a modular view of transfer. *Studies in Second Language Acquisition*, 22, 229-273.
- Murasugi, K., Hashimoto, T., & Fuji, C. (2007). VP-shell analysis for the acquisition of Japanese intransitive verbs, transitive verbs, and causatives. *Linguistics*, 45, 615-651.